

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	南さつま児童発達支援事業所 カラフル		
○保護者評価実施期間	令和8年1月20日		令和8年2月6日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	23	(回答者数) 20
○従業者評価実施期間	令和8年2月9日		令和8年2月14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月16日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	よりよい支援が提供できるよう職員一人ひとりが適切な支援ができるよう取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 支援後に支援に携わった職員で支援の振り返り（話し合い）を行い、疑問に思ったことや支援が適切であったか等、皆で話し合うことで職員一人ひとりの療育的な技術の向上につながるようにしている。その日のこどもの様子小さな変化も見過ごすことがないよう皆で情報を共有し話し合い、こどもの個々の課題や支援のねらい、課題に対して次回からどのように関わっていくかなど検討し、よりよい支援につなげていけるように取り組んでいる。 ・ こども一人一人のその子の持つ個性を大切にしているように、職員の個性も大切にしてお互い協力し補い合えるような関係づくりに努めることで、職員自身も安心して質問したり、支援ができるように配慮している。 	<p>◎ 疑問に思ったことや分からないこと、自身の支援が適切であったかなど、職員がいつでも気軽に児発管や経験の長い職員に質問したり相談できるような雰囲気づくり、職員同士が信頼し合い尊重できるような関係づくりが今後でもできるように法人全体として取り組んでいきたい。</p> <p>◎ 事業所内で行っている療育についての研修の回数を増やしていきたい。</p> <p>◎ 児童発達支援管理責任者がグループ会に入れず、後で担任から情報を聞き対応を指導する時があるため、グループ会に児童発達支援管理責任者もできる限り参加し、職員全員で具体的な関わり方や現状のこどもの様子の評価について、共通理解を図れるように取り組むことで、更なる充実を図っていきたい。</p>
2	こどもの発達全般を精査しながら、より個々にあった支援計画を作成し実施している	日々の療育後に支援に携わった職員全員で会議を行い、個々の課題の確認や取り組みを話し合い、その時々で成長や変化を見せる子どもたちに即対応できるようにし、次回の課題や支援方法などの共通理解を図っている。また、その際、個別課題の評価や様子の客観的記録を残している。その後、記録を基に担任と児童発達支援管理責任者で、さらに客観的な視点で精査し、独自の発達指標やフォーマルな指標を用いて発達評価をし、より個別的な目標を決定、支援計画を作成し実行している。	より子どもの現在の発達に沿って、半歩先の支援を行うためには、発達を見る目や客観視するという力が必要であるため、療育についての社内学習会を定期的に行うようにしていきたい。

3	<p>「人を好きになる」「人を求める心」を通じ、将来「人を支えに乗り越える力」を獲得できるよう取り組んでいる</p>	<p>子どもの成長過程においては「安心」が不可欠であるが、子どもの中にはその安心を、特性や感覚面から得ることが難しい子もいる。こどもによっては愛着の形成が上手くいかないことがあり、家庭で母親が子に対して、母親の存在意義や子育ての喜びを持つことが難しく悩むことも多いため、子どもの状況を母親と共有し、共に愛着の形成が図れるように取り組んでいる。そして、人を安心の土台にできるよう「人を求めてやまない心」を育て、将来、人とのコミュニケーションが難しい特性があったとしても、少しでも人に助けをもらえたり人を支えにできる力が獲得できるように支援している。</p>	<p>親子で療育に参加する日を設け、事業所での取組や職員の関わり方などに触れることで、家庭でも楽しんで子どもとの関わりができるような支援を行った。今後もそのような機会を増やしていきたい。</p>
4	<p>保護者に寄り添った支援を行っている。</p>	<p>保護者との面談時や日々のこどもの様子を報告する際に、こどもの様子を保護者にわかりやすく説明しこどものもつ特性や課題について、家庭では見られない姿などがあるため、丁寧に説明し共通理解を図るようにしている。保護者が一人で悩むことがないように、保護者から相談があれば、共に悩み、考え、具体的な対応策や手だて等をわかりやすく、できる限り早く伝えるような支援を行っている。また、予約なしでいつでも相談できる日を定期的に設定している。</p>	<p>先輩お母さん方(小学生以上のお子さんがいる卒園児のお母さん方)と交流する機会を設け、不登校やこどもの特性等こどもの将来に不安を感じている保護者の方々が、同じ悩みをもつ保護者同士や先輩お母さん方との交流をとおして、少しでも不安や保護者の心が軽くなるような支援を行えるよう努めていきたい。その他 就学してからのことや就学先の詳しい内容について先輩お母さん方から実際の話聞くことで、できる限り保護者が就学に向けて少しでも安心できるよう支援をしていきたい。</p>

	<p>事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること</p>	<p>事業所として考えている課題の要因等</p>	<p>改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等</p>
1	<p>家庭との連携の在り方が担任により異なる。</p>	<p>・家庭での育ての悩みや相談に対して適切な助言を行うためには、子どもの特性や発達を深く理解している必要があるため、相談対応すること自体を難しいと感じすぎたり自信が持てないのではないだろうか。</p> <p>・SNSが発展したことで保護者と連絡が取りやすくなり、LINE等ですぐに連絡できるようになった。その結果、即時対応する迅速さは向上したが、内容によっては保護者に電話して伝えた方がいいことや、直接会って顔を見ながら伝えた方がいい事柄までもを、LINEで済ませてしまうのではないかと懸念がある。</p>	<p>◎保護者とのやりとり等についても、担任が児童発達支援管理責任者と話し合う時間を、より多く持てるよう、児童発達支援管理責任者の仕事のスケジュール管理を行う。</p> <p>◎保護者の気持ちやこどもの特性に合わせて対応することが大事である。家庭ではどのようなことが予測されるのか、こどもの様子を推察できるよう、発達や特性について深く学ぶ機会を設けたり、日々の支援の中で疑問に思ったことやわからないこと等を質問せずにおわってしまうことがないように、様々な場面で実体験を通して学んでいくようにしていく。</p> <p>◎成人したこどもを持つ保護者から、こどものこれまでの家庭での育ちの様子や、保護者が葛藤していたこと等を聞く機会を設けることで、二次障害へ繋がることのないよう、こどもの将来の姿を見据え、今できる支援がどれほど重要であるかを再認識し、真摯にこどもや保護者と向き合う姿勢を養うようにしていく。</p>
2	<p>建物の構造により環境整備に限界がある。</p>	<p>建物が賃貸であるのと鉄筋構造であるため、環境整備に限度がある。例えばこどもが侵入すると危険と思われる部屋等の戸に鍵をつけたくても簡単に改造することが難しく、テープ等でとめて対応する等になってしまう。</p>	<p>こどもが安全に過ごせるよう適切な方法や材料を用いて対応するように工夫していく。</p>

事業所名 南さつま児童発達支援事業所 カラフル

公表日 令和8年2月20日

利用児童数 23

回収数 20

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動内容に合わせたスペースが工夫されていると思いますか。	20					
	2 職員の配置数は適切だと思いますか。	20					
	3 生活空間は、 <u>子どもにわかりやすく構造化された環境*1</u> になっており、事業所の設備等は、子どもの特性に応じて、環境整備や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	20					
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっており、子どもの活動に合わせた空間となっていると思いますか。	20					
適切な 支援の 提供	5 子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	20					
	6 事業所が公表している <u>支援プログラム*2</u> は事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	20					
	7 子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、 <u>児童発達支援計画*3</u> (以下「個別支援計画」と言う)が作成されているか	20					
	8 個別支援計画には、 <u>児童発達支援ガイドライン</u> に掲げられている「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」「家族支援」「家族支援」「移行支援(小学校等へ就学時の移行支援)」の支援内容から、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	20					
	9 個別支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	20					
	10 <u>活動プログラム*4</u> が固定化されないよう工夫されていると思いますか。	20					
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他の子どもと活動する機会がありますか。	15	1		4		利用児の殆どが保育所等に通園されているため機会を特別には設けていないが、今後は設けるよう努めていきたいが、様々な事情があるため交流を望まない保護者の方もいるため慎重に対応していきたい。
	12 運営規定、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	20					
	13 「児童発達支援計画(個別支援計画)」を示しながら支援内容の説明がなされたか	20					
	14 家族に対して <u>家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング*5)</u> 等や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が実施されていますか。	18	1		1		親子療育時等に日々の活動内容を動画で見てもらいながら、子どもの特性等や子どもへの関わり方、支援のねらい等について説明したり、公の研修会がある時は保護者へ案内をしている。
保護者 への 説明 等	15 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	19	1			療育での活動報告など文書だけでなく写真もあり分かりやすいです	共通理解を図るよう努めている。
	16 定期的に面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	19			1		
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	18	1				*未回答1
	18 保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、兄弟同士の交流の機会が設けられている等、兄弟への支援がされていますか。	15	1		4		保護者の交流会を実施している。その際に家族で兄弟も一緒に参加できるような支援を行っているが、人員配置上難しい時もあるため今後は支援を行えるように努めていきたい。
	19 子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されていると、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	18	1		1	相談にもすぐ対応していただきありがとうございます	保護者からの相談についてはできる限り迅速に対応し、対応策が必要な際には保護者が可能な具体的な対応策を提示するように努めている。
	20 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	19	1				
	21 活動概要や行事予定、連絡体制等の情報について、定期的に通信やホームページ・SNS等で連絡されていますか。また事業所における自己評価の結果について発信、公表されていますか。	19					
	22 個人情報の取り扱いに十分留意されていると思いますか。	19			1	一度謝って同じ名字で違う子の書類が入っていた事がありました	児童名だと分かりやすいが、保護者名での掲載とさせて頂いているためこのようなことが起こり申し訳ございませんでした。その後は事故のないよう事故防止に努めております。

非常時等の対応	23	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	17			3	昨年1月に新施設へ移転したため昨年3月に不審者対応訓練を実施。今年度は火災訓練と震災訓練を実施した。マニュアルについては契約時に説明を行うようにしているが、具体的な詳細については説明する時間が確保できないため、今後は保護者にSNS等で提示する予定。
	24	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	18			2	非常災害に備えて訓練を実施している。
	25	子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思えますか。	19			1	安全計画を保護者にSNS等で周知している。
	26	事故等(怪我等を含む)が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思えますか。	19			1	
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	20				
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	20				・カラフルに行くのを毎週楽しみにしています ・カラフルに行けないと泣くくらい楽しみにしています ・とても楽しみに通わせて頂いています。「毎日カラフルがうれしいの!」と言ってます
	29	事業所の支援に満足していますか。	20				・子どもにあわせて対応してくれているのですごく助かっています ・本当にいつもありがとうございます ・大満足 ・ちょっとしたことでも相談しやすく、またすぐにアドバイスも頂けて助けてられています。いつも本当にありがとうございます! ・毎週とてもありがたく利用させて頂いています。感謝です

*1 こ

*2 「支援プログラム」とは、事業所における総合的な支援の推進と事業所が提供する支援の見える化を図るため、事業所で行われている取組等について示し、公表することが求められています。

*3 「児童発達支援計画(個別支援計画)」は、児童発達支援を利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関する分析等を通じて、総合的な支援方針や支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のことで、これは、児童発達支援管理責任者が作成し、保護者等への説明を行うとともに同意を得ることが義務付けられているものです。

*4 「活動プログラム」は、事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のことで、子どもの発達の状況や障害の特性等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されています。

*5 子どもが適切な行動を獲得していけるよう、保護者が子どもの特性を理解したり、その特性を踏まえた子どもへの関わり方等を学ぶこと。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		南さつま児童発達支援事業所 カラフル		公表日		令和8年 2月 20日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・ 体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		教室が多く広いため、静の活動の部屋、動の活動の部屋と分けており、また活動に応じてスペースを区切ったり等して工夫している。			
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		・こどもの発達や特性、愛着形成など、ねらいにより1対1で丁寧に対応したり工夫している。 ・年長児等クラスでは安全上問題がなければ、意図的に職員を少なくすることで児童同士の成長を促すこともできるため、臨機応変に適切な配置をするよう工夫している。			
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		・活動により分けている。身辺整理の部屋、静の部屋、動の部屋というようにわかりやすくしている。特性に応じて、仕切りを使い視覚的な情報を制限したり、見通しが持てるよう写真や絵で活動を伝えたり等 特性に合わせて工夫している。 ・こどもが入ると怪我が予測されそうな箇所にはこどもが入らないように工夫する等、児童が安全に過ごせるよう全てのこどもの行動を予測し危険な箇所がないか点検し改良する等 安全面も配慮している。	2階建てということもあり階段があるが賃貸のためエレベーター設置は難しい。他の箇所でもバリアフリー化が整備されていない箇所があるため、整備をすすめていきたい。		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		・時間を決めて職員で清掃し、清潔に過ごせるように努めている。 ・部屋や玩具等の備品を使用後には清掃、消毒を行っている。			
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		こどもによって、また、その日のこどもの状態によっては個別で対応した方がよい場合もあるため仕切りや個別の部屋を設けて対応している。			
	6 業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		・支援後に支援した職員で振り返りを行い、支援が適切であったか、わからないことや疑問に思ったこと等話し合っている。 ・児発管も参加することで、次回の関わり方や支援方法を改善し、よりよい支援につなげていけるようにしている。 ・課題等を共有し改善策を検討し実行するよう取り組んでいる。	療育活動については、PDCAサイクルがよくなされていると思われるが、他の業務についてはまだ改善の余地があると思われる。		

業務改善

7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		改善できた点もあったが、運営上 改善が難しい点もあったためできる限り改善できるよう取り組んだ。	
8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・普段から職員同士が意見の言いやすい雰囲気づくりに努めている。話し合い時だけでなく、普段の会話の中で疑問に思った点や意見など話している。 ・個別面談時に各々の意見や改善した方がいい点を聞くようにし改善するよう取り組んでいる。	今年度 面談の機会が少なかったため面談の機会を多くもてるようにしていきたい。
9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		第三者による外部評価はまだ行っていないが、事業が事業所だけの独りよがりものとならないよう、外部研修に積極的に参加したり、書籍やメディアで新しい情報を取り入れたりして、常に客観視するよう取り組んでいる。	事業所が大きくなるにつれて、第三者による外部評価の必要性を実感している。機会をみて評価を取り入れていきたい。
10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		事業所内研修の実施、外部研修への出席等を通して職員の質の向上を図る機会を設けている。	
11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		保護者や一般の方にわかりやすいように具体的に作成した。保護者にSNSで周知しHPにも公表している。	
12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		・保護者との面談等とおして、子どもの発達状況や現状を把握し、支援目標の共通理解を図り、その後、支援にあたる職員で行う評価会議で話し合い、児発管と共に支援計画を作成している。 ・保護者との面談、関係機関からの情報、通園先や療育での様子等をもとに、職員全体で支援会議を行い客観的に分析し作成している。	
13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		・子どもの支援に携わる職員での会議を通して子どもに適切な支援が行われるよう、また保護者に対しても丁寧な支援を行うようにしている。 ・常に子どもを中心とした支援を心がけている。	
14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		振り返り時や支援者会議グループ会時等に、それぞれの子どもの発達の現状、特性、課題やねらいなど共有し、計画に沿った支援を行っている。	
15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		・標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントに加え、独自のアセスメントをもとに、しっかりと客観視し取り組みできるようにしている。	

16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		・ガイドラインに沿った5領域の項目それぞれでこどもに合った具体的なねらいや支援内容を設定している。 ・アセスメントやカンファレンスを丁寧に行い、こどもの状況を的確に把握し適切な支援計画が作成できるよう取り組んでいる。	
17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		担任を中心に、児童発達支援管理責任者や管理者、支援に入る職員等に相談しながら活動プログラムを決めている。	
18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		・活動内容が固定化しないよう様々なあそびを取り入れている。 (こどもの発達段階やこどもによっては、同じ活動を繰り返す行うことが大事な場合があるため、あえて意図的に同じあそびを続けて行うこともある)	
19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○			
20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		・打ち合わせを毎回行うことで、グループでのねらい、個別のねらい、振り返りで検討改善した新たな関わり等も共有して取り組むことでよりよい支援につながるよう工夫している。 ・役割分担についても確認しているが、こどもの様子やその時の状況により役割を変更した方がよい時もあるため、臨機応変な対応を工夫している。	
21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		支援終了後に振り返りを行っている。支援が適切であったか、わからないことや疑問に思ったこと等話し合いよりよい支援につなげていけるよう共有している。	
22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		発達や支援計画に必要な内容など記載するようにしている。	
23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		日々のこどもの様子、発達評価会議、家族面談等により適切な見直しを行っている。 ・その時のこどもの発達に合った目標になるよう児発管を中心にこどもの様子や発達状況を精査し日々取り組んでいる。	
24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		基本的には担任が出席するようにしているが、児童発達支援管理責任者も同行出席し、子どもの特性や課題についてより具体的にわかりやすく伝え、関係機関の方々とも共通理解を図るようにつとめている。	

25	地域の保健、医療(主治医や協力医療機関等)、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> ・保健師の方々とは常に連携をとるように努めている。相談したいことや、子どもや保護者の状況など何かあった際にはすぐに連絡、共通理解を図っている。 ・その他の機関とも連携して支援を行う体制を整えている。積極的にこちらから連携を図り情報を共有することで、子どもや家庭の変化に対して、すぐに必要な支援が行われるよう努めている。 	
26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定子ども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> ・保育所等 通園先(移行先)の先生方と情報共有を行ったり、よりよい支援につなげていけるよう具体的に支援方法を共有する等共通理解を図っている。 ・今年度は個別に各保育所等と懇談する機会を設けた。子どもの特性や関わり方についてより深く理解を図ることで、保育所等の集団の場でも子どもに適した環境となるよう取り組んだ。 	
27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		移行支援シートを作成し、引き続き適切な支援が行われるよう取り組んでいる。必要に応じて電話で個別に対応したり訪問したりしている。	
28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
30	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○			
32	保育所や認定子ども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他の子どもと活動する機会があるか。	○		<ul style="list-style-type: none"> ・並行通園の子どもがほとんどであるため、交流の機会を特別に設けてはいないが、地域の子ども達が校庭に遊びに来たりして交流している。 	様々な事情があるため保護者の中には交流を望まない方もいらっしゃいます。個人情報保護の観点から公で交流の機会を設けたりは簡単にはできないので慎重に対応していきたい。
33	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> ・日々の子どもの様子を、写真や動画を交えて保護者に伝えている。 ・子どもの発達の状況や課題だけではなくうれしかったことやすごいなあと感じたこと等 保護者に伝えて共に成長を喜んだりしている。保護者からも報告がある。 	

	34 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> ・親子で療育に参加する機会を設け、その場でこどもの様子を見ながらこどもの発達状況や実際に有効な関わり方等伝えたり、日々の活動内容を動画で見てもらいながら、こどもの特性等やこどもへの関わり方、支援のねらい等について説明する等している。 ・発達や就学に向けての学習会等を催している。 	
	35 運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		利用開始時に説明を行っている。	
	36 児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		<p>普段から、また面談時にもこどもと保護者の意向を確認し、意思を尊重した上で、個別支援計画を作成するようにしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画を作成する際に、前回の目標の達成度も保護者と確認を行い、次回の目標についても確認を行い共通理解を図ってから作成するように取り組んでいる。 	
	37 「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		保護者との面談時に、実際のこどもの様子を伝えながら一つひとつ丁寧にわかりやすく説明し同意を得ている。	
	38 定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> ・面談の時や保護者が自由に相談に来れる日を定期的に設けている。 ・保護者の悩みには随時対応しこどもへの関わり方等の助言を行っている。 	
	39 父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		「保護者の交流会」を行って、保護者同士で悩みを共有し合ったり、自由に話をする時間を設けたりした。	今年度は先輩お母さん方(小学生以上のお子さんがいる卒園児のお母さん方)との交流会を開催できなかった。不登校やこどもの特性等 こどもの将来に不安を感じている保護者の方が多いため、同じ悩みをもつ保護者同士や先輩お母さん方と交流する機会を設けることで、少しでも保護者の心が軽くなるような支援を行えるよう努めていきたい。その他 就学してからのことや就学先の詳しい内容について情報共有したりして、できる限り保護者が就学に向けて少しでも安心できるよう支援したい。
	40 こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> ・保護者に寄り添った支援に努めている。普段から相談しやすい関係づくりを築けるよう心がけている。 ・相談に対してはできる限り迅速に対応し、具体的な支援方法を伝えるよう取り組んでいる。 ・自由に相談に来れる日も設けている。 	

	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○		SNSや文書等を通じて行った。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		・職員採用時に適切な人物を採用している。 ・雇用契約時に「秘密保持についての誓約書」に署名してもらい、個人情報保護のため慎重に対応している。 ・研修等を通じて個人情報の取り扱いについて十分に留意するよう指導している。	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		・招待等の催しはしていないが、活動で近隣を散歩したりして近隣の方々と触れ合う機会を設けている。挨拶したり畑を見せてもらったりしながら、人と触れ合うことで広がる世界を体感できるように等工夫している。 ・地域の方々にどのような施設でどのような子たちが通いどのようなことをしているのか、何の施設なのかをわかりやすく説明し地域の方々の理解を図るよう努めている。	保護者によっては公でのそのような機会を望まない方もいるため、個人情報保護の観点から子どもが利用している時の公での催しは難しいと思われる。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		事業所内研修や避難訓練において、子どもと一緒にまたは職員で訓練を行っている。	
	46	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○			
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○		・入園時に保護者からの情報で確認している。 ・子どもに新たに変化があった場合には、保護者とすぐに情報を共有し対応している。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		食物アレルギーがある子どもはいるが、医師の指示書がある子どもは現在はいない。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			保護者に安全計画を周知はしたが、説明は不十分であった。説明の機会を設けていきたい。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		日々の振り返りの中でヒヤリハットについて報告、対策を検討し再発防止につとめている。	

52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> ・虐待防止についての事業所内研修を定期的に行っている。 ・日頃から虐待につながるような雰囲気づくり職員間でもそれぞれを尊重し合えるような職場づくりに取り組み「虐待の芽」が見逃されないようにしている。 	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		身体拘束が必要なことは現在いないが、指針を整備し規則に従い適切な対応ができるようにしている。	